



新・第5次

荒尾市総合計画を策定しました

閩政策企画課政策経営室 ☎ 63-1273

本市では、これまで5次にわたって、総合計画を策定してきました。総合計画では、本市を取り巻く社会情勢や多様化する市民の皆さんのニーズに的確に対応するため、長期的な展望から、まちづくりの基本理念や将来像を示し、施策の進み具合や成果を測るための目標指標などを定めています。

新・第5次荒尾市総合計画

これまでの計画を踏まえつつ、限られた経営資源を最大限活用しながら、確実に成果を出していく戦略的な計画に改めようと「第5次荒尾市総合計画」の人口減少対策をより強化し、平成27年10月に「新・第5次荒尾市総合計画」を策定しました。

策定に当たり、「産（産業）・官（行政）・学（学識経験者）・金（金融）・労（労働組合）」などの幅広い委員からなる「荒尾市総合計画審議会」で、4回にわたり、審議しました。さらに、市内関係団体にご協力いただき開催した「あらお創生市民会議（人口減少の原因や解決策を考えるワークショップ）や新総合計画に関する事業提案の募集や言論界との意見交換などを行い、市民の皆さんと協力して、策定しました。

本計画は、本市の人口の将来展望を定めた「人口ビジョン」と今後5年間で戦略的に推進する政策をまとめた「あらお創生総合戦略」の2本立てで構成しています。

人口ビジョン（左記グラフ参照）

本市の合計特殊出生率は国や県平均より高い水準ですが、1990（平成2）年以降、出生数を死亡数が上回る「自然減」の状態が続いています。また、バブル経済期は転入者より転出者が上回る「転出超過」が拡大しましたが、2000年代は転入超過となっている時期も見られます。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計に準拠すると、2060年の本市の推計人口は36,003人と見込まれます。

そこで、本市では、結婚・出産・子育てなどの切れ目のない支援を通じて、夫婦が希望する子ども数を実現する環境を整備し、Uターンや首都圏などからの移住を促進することで、人口減少に歯止めをかけようと、2060年の将来展望人口を42,000人と設定しました。

あらお創生総合戦略

まちづくりの方向性を示す将来像は、これまでの将来像の「誇り」「つながり」「しあわせ」などの理念を受け継ぎながら、万田坑や荒尾干瀬などの「世界基準の地域資源」や、人口減少を悲観することなく未来に「希望」を持つという要素を組み込み、『世界基準の自然と文化が、人のつながりや誇りを紡ぐ、希望と志にあふれるまち「しあわせ 創生 あらお」』と決めました。

本市には大型遊園地などの施設があり、長年にわたって子どもが親しみを持つ場所としてのイメージが定着しています。また、暮らしやすさという住環境での強みもあるため、本市で子どもと一緒に暮らすことは大きな魅力です。そこで「子どもと住みたくなるまち」「子どもと訪れたいまち」をつくるため、政策横断的に「子どもと楽しむまち」という重点戦略を設定しました。

荒尾市がこれから特に力を入れる6つの政策



1 安定した雇用の創出

本市の主要産業であるサービス産業を柱として、潜在力を秘めた農林水産業や観光産業などを成長させることで、雇用の質と量を高めます。また、新たな雇用の場の創出を行います。



2 移住・定住の促進

移住者のための総合的な受入環境を整備します。また、本市で生まれ育った若い世代が本市で暮らし続けられるよう、雇用環境を整備し、本市や近隣で働けるように支援します。



3 結婚・出産・子育て支援

結婚相手を探している人に出会いの機会を提供します。また、妊娠から子育て期にわたる切れ目のない支援を行い、希望する数の子どもを持てるように支援します。



4 人口減少に対応したまちづくり

地域公共交通のネットワーク化などで、調和の取れたまちづくりを推進します。また、歴史・文化・自然環境などの地域資源を守り「ふるさと あらお」への愛着や誇りを育みます。



5 豊かな心、優れた教養、健やかな体を育む

子どもたちが心身ともに健やかで、人間性豊かに成長し、グローバルに活躍できるような学校教育を推進します。また、誰もが気軽に体育を楽しめる環境を整備し、健やかな体を育みます。

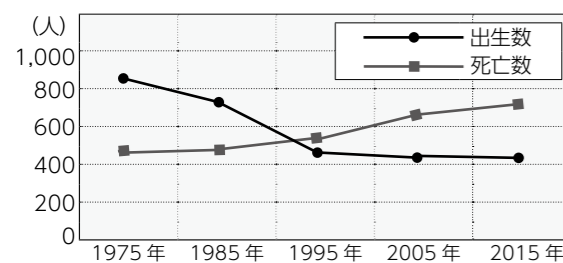


6 健やかで安心できる暮らしづくり

介護・住まい・生活支援サービスとの包括的な提供体制を構築します。また、生活習慣病の予防対策や疾病の早期発見に取り組みます。さらに、障がいのある人の福祉増進を図ります。

荒尾は子どもと楽しめるまちを目指すべし！

荒尾市の出生数と死亡数



荒尾市の将来人口の予想

